

### 第3回 桑名市就学前施設再編検討委員会会議録

- 1 日 時 平成22年12月3日(金) 午後3時から
- 2 場 所 桑名市役所北庁舎 2階会議室
- 3 出席委員 学識経験者2名、自治会連合会2名、民生委員児童委員1名  
私立幼稚園2名、私立保育園3名、公立幼稚園2名  
公立保育所1名、公立小学校1名、保健福祉部長、教育部長
- 4 出席職員 教育総務課長、指導課長、同指導主事  
社会福祉事務所長、子ども家庭課長、同主幹  
学校・園再編推進室長、同主幹、同研究主事、同主事
- 5 議 事  
(1) 公立幼稚園における学級の適正規模と複数年保育について
- 7 傍 聴 人 1名

---

(教育総務課長) ただいまから、「第3回 桑名市就学前施設再編検討委員会」を開催させていただきます。

—資料の確認—

それでは、委員長さんよろしくお願いたします。

(委員長) 第3回 桑名市就学前施設再編検討委員会を始めさせていただきます。議事に入ります前に、まず、第2回の議事録について確認をしていきたいと思えます。(了解を得る)

—委員長、議事録に署名—

次に、私の方から、前回の振り返りをしていきたいと思えます。

— 資料 第2回就学前施設再編検討委員会のまとめに沿って確認—

- ・桑名市の就学前教育の理念の確認
- ・私立と公立の共存について

私は、私立と公立は、立場は違うが対立するものではなく、今回、確認し合った就学前教育の理念の下、これをどのように実現していくのかは、今後も共に検討していくことが出来ると思っています。

その中で、それぞれの施設の保育理念、特徴を理解し合った上で、協議を進める必要があると言うことで、4つの施設の視察をしていただいたという経緯であります。視察の概要について、事務局より説明をお願いします。

(再編推進室主幹)

—資料 視察の概要説明—

(委員長) ご参加いただいた方から感想をお願いします。

(委員) 養泉寺保育園さんの発足当時のお話や本堂に子どもたちが集まってお話を聞く等、大変心温まる思いがしました。私学ならではの特徴のある保育を見せていただきました。また、一緒に保育視察をしたことで、私立さん方とも距離が縮まった気がし、これから共に再編について考えていけると感じました。

(委員) 実際に見せていただいたことは、大変よかったです。保育所(園)の0～2歳は幼稚園の者にとっては、未知の世界で学ぶものがありました。〇〇幼稚園さんでは、専門的な知識や技能の獲得をめざしていらっしゃるように感じました。〇〇幼稚園は、地域の方のお力を借りて、その中に幼稚園教育があり、子どもたちが成長しているということを改めて感じました。

公立幼稚園は、教育要領にある人格形成の基礎を培うということで保育を進めています。子どもたちが周りの環境に自発的に働きかけ、遊びに取り組む中で成長をしていくことを大切にしております。

就学前教育の理念のイメージ図にある5つの力を、あそびを通して育んでいくというのが公立幼稚園の教育です。中でも、人とのかかわる力は、人間が生きていく中で大変重要な力で、その力の基となる部分を育てております。子どもたちは、登園すると、「自ら選んでする活動」ということで、友だちと関わって、自発的なあそびに入っていきます。その後、片付けを

し、視察で見ていただきましたように、学級全体の活動があります。ここでは、クラスみんなで触れ合って遊ぶことが楽しい、という気持ちを持たせることをねらって、様々な活動を行っております。

4園回らせていただき、それぞれの施設も、大事な施設であると感じました。

(委員) それぞれ、特徴のある園を見せていただき勉強になりました。

〇〇保育園さんでは、園の成り立ちのお話を聞き、代々その理念を大切に引き継いでいらっしゃることに感心しました。

〇〇幼稚園では、障がいのある子どもさん1人に支援員さん1人ついておりました。公立保育所では、障がいの中程度のお子さん3人に1人の加配保育士ということになっており、幼稚園では、どのように支援員さんをつけているのかを知りたいと思いました。

〇〇幼稚園さんでは、専門の先生が入って音楽、体育等を基本から教えていらっしゃる、小さい時期から経験し、身に付けていくことは大事だと感じました。保護者がそれを選んでいるのだと思いました。

(委員) それぞれの大事にしていることに基づいて、園運営がなされているということがよく分かりました。その中で、どの園も、共通して、子どもたちの笑顔が素敵であったと感じました。この会は、就学前施設再編検討委員会ということですので、「子どもたちの笑顔のために」また、安心してその子どもたちを預けられる環境をとという点から「保護者の安心のために」ということを議論の大きな視点としていくことが必要であると改めて感じました。

(委員) 公立も私立も、どちらも努力をしていると感じました。子どもは、3歳になると自主性も育ってくるようになりますので、〇〇幼稚園さんでは、園庭はのびのびとした空間が広がっており、すばらしいと感じました。また、子どもはいろいろな可能性を持っており、その芽を育てるという点で音楽活動等に力を入れていらっしゃるのは大変よいと感じました。

〇〇幼稚園では、障がいのある子どもについては、保護者と連携を密に、丁寧な保育をしているとお聞きし、それも大事なことであると思いました。

(委員) それぞれの園が、園の目的にそってしっかりやっていると感じましたし、子どもたちも生き生きと保育を受けており、頼もしく感じました。公立も私立もそれぞれ大事な施設であると改めて思いました。

(委員) どの施設も教育・保育の内容が充実しており、1つ1つの園の特色が活かされた保育がなされていると感じました。私自身、子どもたちの笑顔に出会えたことはうれしいことでした。また、委員同士もお近づきになれたことはよかったと思います。

(委員) どこも子どもたちはいい顔をしていました。それぞれの建学の精神、それぞれの思いがあって方法と目的を持って園の運営をしているわけですが、これを、どのようにして、桑名市として1つのものに作り上げていくのかに焦点を絞っていくといいと感じました。

(委員) 保育所、保育園さんを見せていただいたのは初めてでした。〇〇寺さんでは、歴史も聞かせていただき、幼稚園、保育園の原点を改めて認識させていただきました。

〇〇幼稚園さんでは、特に障がい児1人1人に支援員がついているということで、これは私学には難しいなと思いました。

私ども〇〇幼稚園ですが、専門性を持った教員をつけておりますが、それは、スペシャリストを育てるためではありません。音楽活動については、きれいな声の出し方等を子どもたちの発達段階に応じて指導しております。今の教員は多様な力を求められていますが、その全てのことを1人の先生が勉強するのは不可能に近いと思いますので、専門の職員がアドバイスをすることによって、子どもたちの成長に合った教育をしていくという考えでやっております。プロを育てるためではありません。

また、先ほど、公立幼稚園の先生からお話がありました内容は、公私を問わず大切にすべきことであったと思います。公立のよさは確かにあるのですが、あえて、公立でやらなければならない理由は、今回の視察で、感じることはできませんでした。いろんな幼稚園があるということが、私学の魅力ですので、仮に、全て民営化されても、今公立で実践されているのと同じ園が誕生してもいいのかと思います。

(委員) 桑名の保育園の原点を知って頂きたいということと、私立が努力をしているということを少しでも分かっていただけたらと思い、見ていただきました。自分も父親も行っていたので子どもも、という形で来てくれ、安心して預けてくださっています。

今回、他園の視察には参加は出来ませんでしたので、機会があれば是非参加したいと思っています。

(委員) 子どもたちの顔はとてもよかったですし、各園、特徴があつていいと思いました。ただ、この会の目的は再編にあるので、園児数のある〇〇さんを見に行くよりも、園児数が少なく、保育所と共にやっているという〇〇を見せていただくのが本来ではなかったかと感じています。

(委員長) 今回の視察の目的は、公立と私立、幼稚園・保育所(園)がどういう教育、保育をしているのかということ、まずは理解し合うということでした。小規模園や幼保一元化のことは、これから議題に挙がってくると思われますので、その時には、また、小規模園の視察も必要になってくるだろうと思います。最後に副委員長さんお願いします。

(副委員長) 保育所保育指針、幼稚園教育要領に則った上で、それぞれに個性のある保育をされているということを感じ、うれしく思いました。少子化は経営に影響してくるわけですが、それぞれの個性は、続けていただきたいと思います。ただし、公立幼稚園がどれだけ生き残れるかは、無視出来ないと思います。

(委員長) 視察を終えて、皆さんの感想を出していただきました。

立場は違え、桑名市の就学前教育のイメージ図にある5つの力を、共にやってきているということについては、共通認識ができたのではないかと思います。これから、再編を考えていく中では、ご意見の中に出てきました表現を借りますと、「子どもの笑顔、保護者の安心」をキャッチフレーズに、議論をしていくことが必要であると思われました。

さて、本日は、参考資料として、平成9年と13年の答申を出していただきました。今までの経緯の概略は、これでご理解いただけたと思います。平成19年答申の就学前教育の理念と6つの提言についても、ご理解いただけたと思います。

そこで、いよいよ諮問内容に入っていきたいと思います。園児数の減少が続く公立幼稚園をどうしていくのかを、具体的に議論していきたいと思います。

前回資料4～8について事務局説明をお願いします。

(再編推進室主幹)

—資料4～6に沿って説明—

(再編推進室研究主事)

—資料7～8に沿って説明—

(委員長) 園児1人当たりの経費については、私立さんについてもご協力をいただきました。ただし、公私では、会計の仕方が違うので、厳密な比較は無理ですが、

目途として、見ていただければと思います。資料 4～8までで、ご質問がありましたらお願いします。

(委員) 私立の幼稚園の経費、職員配置ですが、協力をいただいた園のデータで算出してあり、全園ではありません。

経費ですが、私立は、減価償却費(建物に係る費用、バスを買い取る金額)も含んでおりますが、公立には含まれていないと思います。そのようなことを整理し、もっと厳密に比較をすると、まだまだ開きが出てくると思います。

職員配置は、兼務職員も含まれており、無理やり移しこんだところもあり、その点はご了承ください。

(委員) 園児1人当たりの公費の比較ですが、これは、国、県の税金も含まれており、実際の桑名市の税金ということになりますと、1人当たり2～3万という数字になるかと思います。桑名市の幼稚園のあり方を判断していただく際、公立幼稚園を存続させるために、1世帯あたりどれくらいの税金を投入しているのかということ、みなさんにご理解していただいた上で、判断をしていただければと思います。

(委員) 先ほどの意見は、私立幼稚園就園奨励費の半分を市が負担している(実際は、3分の2強が市の負担)ので、それを単純に人数で割るということであつたと思います。それ以外の私立への補助は、地方交付税交付金と県費ですので、桑名市からは出ていないですね。

(委員長) 市のみの税金でどれくらい私立に支援がいつているのかということですね。今すぐには難しい内容ですので、一度検討をしてみてください。

(委員) 公立幼稚園の経費については、桑名市の一般財源であり、交付金ではないと思われませんが、このあたりがよく分からないのですが。

(再編推進室主幹) 私学さんへの助成としては、就園奨励費は3分の1弱が国から、残りの3分の2強が市の負担です。私立学校助成補助金は全部市の負担です。私立幼稚園振興補助金は県の交付金ですので、市の負担はありません。公立の経費の件は、お時間をいただきたいと思います。

(委員) 分かりました。

(委員) 桑名市の税金がどのようになっている、それがきちんと比較しやすいような資料にしてほしいと思います。職員配置ですが、保育園では5歳児は30人に保育士1人です。この公立幼稚園では、11人、20人で2人の先生、それに保育支援員がおり、子ども10人に1人から2人の先生となり、非常に率が違います。これが私立ならまったく経営ができません。公立は、至れり尽くせりの状態だということが資料から見えてきます

1点、大山田北は、4歳児が42人いるのに、5歳児は15人と減るのはなぜですか。

(部長) これは、4歳児は全市どこからきてもよいので、様々なところからきておりますが、5歳になったら居住地の学校にもどっていくという取り決めがありますので、4人中27人は、居住小学校区の公立幼稚園に行くということです。

(委員) その点は分かりました。

職員配置は、私立との差が大きく、公立は、このところに費用の負担がかかっていると思われれます。

(部長) おっしゃるとおりです。検討委員会をお願いしている大きな柱の1つがその点でございます。この状態で公立幼稚園を続けていくということは、費用の面もそうですが、何より、子どもさん1人1人、集団の中で生まれる力という点を非常に危惧しております。1桁の人数の園もいくつかありますし、職員配置では、2人先生がいても、1人は主任で、桑名地域は、園長が兼務ですので、園長代わりですので、実質は担任1人という状況です。どちらかが、体調を崩したらやっていけないような現状もあり、ご指摘の費用面においてもあまり効率的ではないということから、本当にこれは課題であると思っております。

(委員長) これから、まさしくその部分を議論していかなければならないところだと思います。資料のご質問はこれでよろしいでしょうか。

(委員) 職員配置ですが、公立がこれだけの数あって84人(小学校兼務員を除く)、私立は4園で90人、いかに公立が優遇されているかは一目瞭然です。先ほど、職員1人が体調を崩したら、とおっしゃいましたが、私立も同様で、その中でがんばっている、それが再編の理由というのは納得できません。もう1点、公費についてですが、やはり、市単独の税金はいくらかという書き方をするのが、皆さんに分かりやすいと思います。

(教育部長) 私が言いたかったのは、公立幼稚園が、このような規模では、子どもたちのコミュニケーション能力等を考えた時、非常に厳しい状況にあるということと、もう一方で、費用対効果の面も当然あるということです。また、公費の資料は、もう一度精査をして、事務局に出してもらいたいと思います。

(委員) 20年ほど前から、公私の差はあり、もっとうまく配分してもらったら、先生の給料が上げられたと思います。資料を提出したりして努力してきましたが、年々格差は広がるばかりでした。今回は、きちんとした資料を出して検討をしてほしいと思います。私立でできることなら、私立にもう少しお金を回す等、どのようにすればお金を有効に使えるかということ、考えていただきたいと思います。

(教育部長) 先ほどのご意見は大変重要なことであると認識しております。今、公立幼稚園は、子どもたちにとっても、費用の面からも良い状況ではなく、これをどうしていくとよいのかという点で、お知恵を拝借したいと思っております。

(委員長) 資料の、園児一人当たりの経費と公費のあたりは、もう少し分かりやすいものにしていただくということですが、財政の仕組みからも、非常に見えにくくなっているのだらうと思います。県からの補助は、三重県税から回しており、国からの補助も、私たちが所得税等で払っているものです。市税にあまりにも焦点化してしまうと、そもそも私たちが日本の国に払っている税金は私立幼稚園に回ってないのか、という話にもなってしまいます。公立と私立の財政基準が違っている中で、比較をしていこうという時には、そのための留保条件をつけざるを得ないと思います。一方、十分いろんな条件をつけていかないと、比較は出来ないと思いますが、留保条件をつければつけるほど、資料は見にくくなっていくことも確かです。とりあえず、一度、資料を作ってみてください。

人員配置の部分では、公立には、保育支援員を手厚くつけているが、これは、私立には難しい。それならば、その点が公立の役割かということかという、そうではなく、支援を要する子どもがいないところで育つということが、実社会や小学校に行ったときに、どうなのかということも考えていく必要があると思います。

では、次に、今の公立幼稚園の規模が、非常に小さいというご指摘をいただいておりますが、子どもたちが友だちと触れ合って、十分に育つためには、どれくらい的人数が必要なのか、クラスは最低どれくらい必要なのかというような内容のご意見をいただきたいと思います。桑名の今の基準は、10人以下が複数年続いたら休園と出ておりますが、では、11人ならいいのか、10人、11人という数で、本当に子どもたちの笑顔を確保できるのかということのご意見を、いただきたいと思っております。

再編を考えるに当たっての、基準の見直しと捉えていただければと思います。  
まず、資料9について、事務局より説明をお願いします。

(再編推進室 研究主事) ー資料9に沿って説明ー

(委員長) これを参考にしながら、ご発言いただけますでしょうか。

(委員) 私も十数人というクラスで保育をしたことがあります。教師が十分関わることが出来る、友達同士のかかわりが濃くなる、というよさはあります。ただ、子どもたちの姿を見ると、運動会を終えた頃から、大きく成長し、ドッチボール等のチーム対チームの遊びを望むようになります。今の園でも、自ら選んだ活動の中で、10人対10人でドッチボールが始まっており、途中で何人か入り、最後には、クラスみんなが入って、1時間近く楽しんでいました。子どもたちが、自分たちの力を発揮して遊ぶには、やはり1クラス20人は必要だと強く感じています。

遊びの中で、困ったときは、みんなで考えを出し合い解決していくのですが、人数が多いほど、多様な考えがあり、その数だけの友達の思いを知るということになります。いろんな考えがあることを、体で感じ学んでいきます。クラスに活気やまとまりも出てきます。10人前後の人数では、子どもたちにつけたい力という面で、弱いと思います。

また、4歳は5歳を手本に育ち、5歳は4歳の姿を見て小さい子の思いを知る、ということを見ると、4歳5歳1クラスずつは最低必要であると思いますし、それぞれ2クラスになれば、より、子どもたちの成長が見られると思います。

桑名は今、5歳になったら、居住地の小学校区にある幼稚園に戻らなければなりません。5歳になったら、小さい子にこんなこともしてやろう、あんなことも・・・と生きて過ごしても、5歳児になって学区に戻った時には、4歳児はいない。

4歳児、5歳児と同じ園で過ごすことを強く望んでおります。

(委員) 精義、城東と非常に園児の少ない園を管理職になってから経験してきました。もちろん保護者との結びつきが強くなり、保護者ごと引き受けるという良さもあります。しかし、ルールのある遊びをするには、6人7人では少なすぎるということ、トラブルが少ない分だけ社会性の面で伸びが小さい、とも感じており、主任と話をして、20人はほしいということでした。

また、4歳は親が送迎しますので、親同士がとても仲良くなります。5歳になると地元に戻らなければならないので、親も泣く泣く別れていきます。子どもにとっても、親にとっても、4歳5歳と同じところで、2年間過ごせると本当にいいと思いますし、保護者からも要望の声が出ております。

(委員) 少し、議論が前後するかもしれませんが、前段のところ、「あえて公立でやる理由がない」というご発言があったと思います。では、今現在、公立の幼稚園に通わせている保護者は、どんな理由で通わせているのか。それを、私立の皆さん方は、どのようにお考えなのかは知りたいと思います。様々な理由があるとは思いますが、様々な子どもがいる、そして、様々な経済状況の親がある、公立幼稚園の意義は、そういった様々な状況にある市民のニーズに応えるためにあると思います。そういう議論は大事であると思います。当然税金を投入する施設ですので、費用対効果、園の規模の議論も必要であるとは思いますが、公立は、それだけで議論するものではないと思います。この不況の世の中で、大変な苦勞をされている保護者や子どもたちを、分け隔てなく受け入れる施設は、必要であると思います。その議論をした上で、再編するべきところはする、というところに結びついていくのかと思っております。

(委員) 公立幼稚園が、今、果たしている役割を否定しているわけではありません。どういう理由で公立を選択されているかはきっちり調べるべきだと思います。その上で、本当に公立しか出来ないのか、あるいは、助成を受けることによって、私立幼稚園でも出来ることなのかを考えた時に、私の中で、今現在、公立しか出来ないということが、今回の視察で見つけられなかったということです。

(委員) でも、それは、「～たら」「～れば」の話で、私立に対してこれだけの助成があったら、それなら私立でもいいではないかということですよ。

(委員) 再編ですので、公立幼稚園さんが今やっていることを、私立幼稚園が出来るのであれば、税金のかからない方がいいというのは、当然の議論だと思います。かといって、急激に今すぐに公立幼稚園をなくせと言っている訳ではなくて、今後再編するに当たって、このようなことも念頭において、議論をしていくべきではないのかということをお願いだけです。急に、なくせというつもりは、一切ありません。

(委員長) 公立の意義は、当然、私立との比較の中で、問われ直さなければならぬことでもありますし、保護者の安心のために、いろんな形のもので選択されていくということだと思います。そういう意味で、公立の1クラス10人というのがどうなのか、ということについて、今日は、ご意見をいただきたいと思っています。公立が持っている意義というの、当然その中で、考えていかなければならないと思っております。

(教育部長) 19年答申の10人という基準の議論の柱になったのは、まず、お金のことよりも、今、委員長さんがまとめられた「子どもの笑顔と保護者の安心」ということであります。その中で、最低のコミュニケーションをうむ人数として、4人が最小単位ということでした。(自分、相手、周りで見ている人、ジャッジする人)そして、その中になじまない子も出てきて、その子の居場所ということ考えると、4人というまとまりが4つ～5つ絡み合わないといけない、ということで20人程度、20人以上いるとより良いという人数が、その当時も出ました。ただ、休園措置が20人というのは非常に厳しいということで、議論の末、10人になりましたが、本来は、やはり20人という数字が、最低限ほしいと思っています。

また、子どもたちが切磋琢磨して育つということ考えると、やはり、2クラスはほしいと強く感じています。

(委員長) 今までのお話を伺っておりますと、1学級20人、25人当たり、4歳5歳の連続した保育、各年齢2クラスくらいという3つの条件が浮かび上がってきています。今日、これを確定するわけにはいかないと思っておりますが、ご意見は伺っておきたいと思えます。

(委員) 前回人数のお話をさせていただきましたが、少人数でのメリット、デメリットということですが、名古屋の方に聞いてきました。デメリットとしましては、コミュニケーション不足になるということと、すぐにお山の大将が1人出てきてしまうということでした。メリットは、それなりに目が行き届くということもありますが、やはり、適正な人数というのは、30人くらいで、2～3クラスあれば、いろんな形で切磋琢磨できるという話もありました。子どもは、遊びの中で成長していくということでありまして、やはり、小さな輪の中で、育つのより、大きな輪の中で育つ方が良い、ということも聞いてきました。

(委員) 内容ではありませんが、この議題自体ですが、なぜ、これをここで議論するかが理解できません。

(委員) 私も同様で、この適正規模が理想ということであれば、理解はできますが、ただ、税金の投入のこと、エリア的な人数の話等、まだまだ議論すべきことがあるにも関わらず、なぜ、今、人数の話になるのか。理想論であれば、資料9のとおりであると思えます。また、この理想で再編したときに、本当にこれだけの人数を確保できるのかということにもなってくると思えます。議題にあがってくるのは早々ではないでしょうか。

(委員長) 確かに、今後の地域の人口の動向等も必要であります。私は、教育長から

5つの項目の諮問を受けました。それを、ここでどういう形で順序だてて議論をしていくのかという時に、まずは、桑名市の就学前教育の理念は大方の賛同が得られたと思っています。その中で、私立と公立の共存についても、先ほどの議論まで、ある程度共有できたのではないかと考えています。

さて、次ですが、最終的に、教育長が一番ほしいのは、公立幼稚園の適正配置についてだと思います。この適正配置を考える時に、まずは、今、10人、11人で点在している公立幼稚園をどうするのかということを考えていく必要があります、そのためには、19年答申の10人以下という基準を一度考え直す必要があるのではないかと。桑名の理想の教育のためには、どれくらいの人数が必要で、どれくらいの規模が必要かという基準を議論することが、適正配置の議論につながっていくと考えております。私立の補助の問題や、地域の人口構成についての議論はこれからしていかなければいけないと思っています。ただ、諮問の最初に、公立幼稚園の適正配置についてとある以上、そこに踏み込むための足がかりとして、今の10人以下で休園という基準を、まずは、見直す必要があります、今日は議題にさせていただきます。

(委員) 今、公立幼稚園の4歳、5歳は、1クラスずつと公立幼稚園の先生が言われましたが、各年齢最低20人となりますと、私立幼稚園、保育園は影響がないとはいえませんし、それが、本当にできるのかできないのかということ、今後協議をしていただきたいと思っています。

(委員長) 当然そういうことですね。

ただ、20人で1クラスずつということではなかったと思いますが。

(委員) 子どもたち同士が育つ環境として、最低20人は必要と考えているということで、人数は、20人だったり、25人だったり、30人だったりということです。

(委員長) そうですね。そして、あくまでも上限は35人ということで、1クラスずつということでもなかったとも思いますが。

(委員) はい。4歳5歳の連続した保育で、最低1クラスずつ、理想としては、各年齢複数クラス以上ほしいと考えています。しかし、現状のままでは考えていません。そのところは、この会でご検討いただくと考えております。

(委員長) このような基準ですから、今ある園がそのまま存続するはずはないですね。公私の共存ということを考えて、減らすなら減らした場合、浮いたお金を、公私の

格差のためにどう使うかという議論は、また、ありうるとは考えております。

(委員) そうすると、基本的には、理想論ということでもいいのですね。

(委員長) いずれ、現実にもぶち当たるのですから、せめて、クラスの規模や人数くらいは、理想を語りたいたいですよね。

(委員) 私立幼稚園、保育園にどのように影響してくるかは、まだ分かりませんが、何らかの影響は出てくるのではないかと考えています。

(教育部長) 子どもたちの育ちや学びを保障するための規模は、どのくらいかということを含めて共通理解しておいて、そのものさしをもって、では、エリアごとにどうするのか、あるいは、費用対効果のことも含めてどうなのか、という議論をしていくべきであると思います。その中で、どうしても現実にもぶち当たってきます。当然、公立の幼稚園の数はこれでいいのかということになってきますので、そのあたりの共通理解をここで図っていきたいと思っています。10人という基準でいいのか思っていましたので、新たなものさしとして考えていただければと思っています。

(委員) 1クラス何人で幼稚園が成立するのかという議論になじまないメンバーなのだと思います。収入があり支出があつて、必然的に出てくる数字なものですから。私学が現在成り立っている人数を参考にさせていただくと、将来、費用対効果を見た時に、議論できる範疇に入っていくのではないかと思います。現在のところ、私学でいうと3歳児を20～25人くらいで設定しております。公立の場合、そうとはいかない部分がありますので、そこはこれから議論される場所であると思います。

その時に、共存ということですが、みんなが存在するのが前提で、会議をして、それぞれが既得権を持って、生き残るための方策だけを考えたのかと市民に思われるのはどうかと思います。どちらかという、役割の分担的なところに発想を及ばせていくことが必要であると思います。

(委員長) ただ、役割分担では、私立も公立もみんながつながりあつて桑名の子どもの根っこを育てよう、と桑名市の就学前教育の理念として共通理解したことと、だいぶ食い違ふと思いますが。

(委員) 公立も私立も、子どもの意欲を育てるために幼児教育をしているということには、代わりはないわけで、そのところが大きく曲がっていくということは、考えにくいと思います。

(委員長) 今までのお話を最大限集約すると、4歳児、5歳児というクラスを設け、各年齢2クラスくらいずつということになるかと思います。そうなると、今ある公立の幼稚園は、何らかの形で統合再編は避けられないのではないかと、いうところまでは共通理解としてもっておきたいと思います。

その中で、もう1つの道として幼保一元という形があります。それについては、次回議論をしていただいて、その上で、少し、再編の具体的な計画というものを議論していくような段取りになっていくのかと考えており、今日、議題として、公立幼稚園の園の規模、1学級の人数、複数年保育を提起させていただきました。

(教育部長) 子どもたちは、様々な環境の中で育っており、一人一人個性があります。様々な子がいて、子どもたちの育ちが確かなものとなるのだと思いますので、その点は、公立も私立も関係はないと思います。そのことは、1つ押さえていく必要があると思います。

もう1点は、今、4歳5歳という話が出ておりますが、今回の再編については、3歳は考えていかずに、4歳、5歳として公立の幼稚園を再編していくと考えておりますので、この点も共通にもっていただければと思います。

(委員長) 今日の議論を一度、まとめて、次回は、それを確認しながら、補足の議論をさせていただくことにしたいと思います。

今日議論の最大公約数的な意見としては、1クラスの人数は、20、25、30人くらい、先ほど教育部長からお話がでたように、4歳、5歳という形でやっていく。出来れば4歳5歳2クラスずつが望ましいというところであったと思います。

次回、これを確認するところからいきたいと思います。

では、事務局、その他をお願いします。

(室長) 次回ですが、1月28日(金) この会場で、午後3時からお願いいたします。

(委員長) それでは、終了させていただきます。ありがとうございました。

第3回 桑名市就学前施設再編検討委員会終了 17時15分終了

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。

委員長